

平成29年度 学校経営方針

教育目標

○「自ら学ぶ意欲をもち、人権を尊び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」
＜展望する力＞ ＜つながる力＞ ＜挑戦する力＞

めざす生徒像

○自ら学び考える生徒（主体性・自主性の育成） ＜展望する力＞

○命と人権を尊重する生徒（確かな人権意識と豊かな感性の育成） ＜つながる力＞

○心身ともに健康な生徒（明朗・快活な人間性と健康でたくましい心身の育成） ＜挑戦する力＞

平成29年度学校経営計画兼学校評価書

京丹波町立蒲生野中学校 <NO. 1>

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	自己評価	関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・京都府教育委員会、京丹波町教育委員会の示す方針を踏まえ、公教育の推進に努める ・平成29年度「京丹波町教育の指針」「京丹波町教育振興基本計画」、改訂「京都府教育振興プラン」「平成29年度学校教育の重点」等に基づく教育活動を推進する ・人権尊重をあらゆる教育活動の基盤として、一人ひとりの生徒の可能性を尊重し、その個性と能力を十分伸ばし、変化の激しい社会を自らの力で生き抜いていける学力を身につけさせる ・「学びを育む京丹波町メソッド」の徹底を図り、生徒を学習の主体者とし、持続可能な学力向上システムの開発を目指すとともに、学びの基盤となる学習集団の育成に努める ・学校教育目標の達成のため、全教職員が共通理解を深め、組織として一致協力した実践に努める ・実践的な研究・研修を進め、教職員としての指導力量の向上と資質能力の向上を図る ・小・中の連携を積極的に進め、学びの連続性を高め、一貫した教育内容・教育課程の構築に努める ・家庭や地域社会の期待を真摯に受け止め、学校が地域にできること・地域が学校にできることを積極的に取り入れて、学校・家庭・地域社会の協働によるより良い教育環境づくりに努める 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の組織的な実践と中堅・若手の力量向上により、学校の組織的な力量（チーム力）が発揮できる素地が築けた ○生徒会活動や部活動の活性化により、生徒に学校の主体者であるという意識が芽生え、学校をより良く変えていこうとする意欲とその成果に対しての誇りを感じ始めている ○教職員の組織的な実践と生徒自身が学校を改善しようとする動きが実を結び、落ち着いた学校生活が実現し、積極的な生徒指導、学習指導に向かえる素地が形成できている <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義主体の授業を改善し、生徒を学習の主体者として、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の在り方を模索し実践する必要がある ・対話的な学びの基盤となる学習集団作りを追求し、生徒が安心して発言でき、一人ひとりの違いを認め、尊重する学級経営を推進する ・長期的な視野に立って、家庭学習習慣の改善も含む生徒の「生活管理能力」を育成する ・総合的な学習の時間等を活用して教科横断的に生徒の思考を活性化させ、学んだこと・気づいたことを元に自分の考えをまとめ、表現できる力を伸ばすシステムを構築する必要がある ・全教育活動において生徒のチャレンジを喚起し、頑張る自分・頑張る仲間に対する誇りを持てるよう指導を展開する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学習指導の改善・充実 (2) 人権教育の推進 (3) 生徒指導の充実 (4) 特別支援教育の充実 (5) キャリア教育・進路指導の充実 (6) 道徳教育の充実 (7) 健康安全・防災（犯）教育の充実 (8) 食に関する指導の充実 (9) 特別活動の活性化 (10) 総合的な学習の時間の計画的な運用 (11) 読書活動の推進 (12) 国際理解教育の充実 (13) 研究・研修の充実 (14) 組織運営の充実と活性化 (15) 保護者や地域社会との連携・特色ある学校作りの推進 		

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点	
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末			
学習指導	○主体的・対話的で深い学びへの指導方法の改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」による見通しと「振り返り」を重視した学習活動の推進による「わかる・できる」実感の積み重ね 						
	○わかる授業を展開し、基礎的・基本的な内容を定着させる	<ul style="list-style-type: none"> 授業と連動した家庭学習課題の提示により学習内容の定着と家庭学習習慣の確立を図る 						
	○生徒の学習意欲を高め、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな指導を行い、学力を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> 単元指導計画に「ペア・グループ学習」を適切に位置づける 「ペア・グループ学習」における課題の工夫による学び合いの促進 授業改善及び外部人材（出前講座）の活用等による知的好奇心の喚起 						
	○学力向上システム開発校の指定事業等を有効に活用し、生徒の学力の定着・向上や生活の改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 英検、漢検等を活用した知的チャレンジの奨励 各種学力診断テスト結果、アンケート結果の分析による生徒の変容の適切な把握 						
	○家庭学習の習慣化を図る取組（家庭連携含む）を進め、自学自習力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携による「学びの連続性」の確立 TT及び学習支援員の活用による適切な学習支援 						
人権教育	○互いの個性や価値観の違いを認め、自他の生命と人権を尊重する態度や実践力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がまず傾聴する姿勢を示し、一人ひとりの発言を尊重し、授業は「安心して間違える」場であることを徹底する 						
	○一人一人の価値を認める学習集団づくりの推進（発言を聞く、発想を認める、間違いを許容する、仲間の成長を喜ぶ）	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒に様々な人権問題の正しい理解や認識の基礎を培い、その解決に向けての展望を持たせる指導を推進する 生徒・教職員が日常的に人権を意識した言動に努め、教職員の人権意識を磨くとともに、指導力を高める研修等を実施する 						
	○人権教育指導計画に基づき、系統的に発達段階に応じた指導の充実を図る							

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点	
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末			
道徳教育	○指導項目に基づいた適切な道徳教材の活用、及び発達段階に見合った系統的・組織的な年間指導計画に基づき望ましい人間としてのあり方・生き方について学ばせる	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して、道徳的な価値を考えさせ、自らの生き方を考えさせる指導を展開するとともに、その要となる道徳の時間の充実を図る 生徒実態に応じて「私たちの道徳」「今日の子ども明日へのとびら」や地域教材等の資料の活用を検証し、その指導案の蓄積を図る 道徳の教科化に向けて、内容の取扱や評価等についての研修を実施する 						
	○地域人材や教材を活用した取組に努める							
	○道徳の教科化に向けた研修を行い、具体的な取組につなげる							
健康安全・防災(犯)教育	○生命の尊重を基盤にした健康安全・防災(犯)教育を徹底し、危機管理体制を強化する	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識をたかめ、校内施設点検、教科や部活動の指導内容・活動内容の点検や避難訓練等を定期的実施する 喫煙防止教室、薬物乱用防止教室、性教育を着実に実施する 						
食に関する指導(食育)	○日常の食習慣を見直し、栄養面の大切さを習得するために、適切な食育年間指導計画を作成し、校内研修・授業研究を行い、食育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食を食育の中心に据え、年間指導計画に基づいた指導を展開する 食物アレルギーに関する研修、嘔吐時の対応に関する研修等を実施し、安心・安全な給食の確立を図る 						
	○学校給食の円滑な実施をめざす							
特別活動	○学習活動・学校行事・学年行事・学級集団活動等をとおして自ら考え、企画・運営するなど、自主性や自治意識を喚起し、活動意欲や主体的に生き抜く力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を通して、主体的に学校生活を向上・改善させる取組を展開し、適切な評価によって自らの活動や学校に対する誇りを育てる 地域社会に目を向けさせ、中学生として可能な地域貢献の在り方を考え実践できることを模索する 						
	○各専門委員会活動をより活発にさせる中で、生徒会活動を充実・活性化させ、生徒自らの力でやりきる意欲と自尊感情、自己有用感、達成感等を培うよう支援する							

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点	
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末			
組織運営	○校務分掌により、各組織内や組織間の連携を密にして活発な議論を行い、それぞれの機能を充実・活性化させるとともに、自己の責任能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 「ポパイ (positive, passion, improvement) にホウレンソウ (報連相) でフットワーク軽く」を合言葉に、チーム力の向上を図る 企画会議を定期的開催し、他学年や全校の動きを理解し、見通しを持った指導を展開する 						
	○学校・学年・学級経営の一貫性と統一性のある教育活動を展開し、チーム学校で取り組む							
保護者や地域社会との連携 特色ある学校づくり	○保護者や地域社会から見える生徒の具体的な取組を行い、ホームページ、広報等とおして外向きに発信して、「学校・生徒の見える化」を進め、生徒の動きが地域社会から注目され、支えられる学校づくりをめざす	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問を軸にすえて、顔を合わせた連携を推進する 学校だよりを毎月発行し、生徒の頑張りや成長を、地域・保護者と共有する 						
	○学校の教育力の向上に向け、PDCAサイクルを重視した学校評価の改善・充実を図り、開かれた特色ある学校づくりを推進する							